

タイトル:平成 26(2014)年度 研究セミナー(第 15 回)

日程:平成 26 年 12 月 19 日(金)~21 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「アフマド・ルトフィー・サイドのエジプト・オスマン帝国関係理解

ー 近代国際法の受容という観点から」

沖 祐太郎 (九州大学)

私は「近代エジプトにおける国際法の受容」をテーマに博士論文に取り組んでおります。このようなテーマを研究しておりますと、国際法学と中東研究との二足のわらじを履いているようなもので、法学部に所属しておりますが普段読む論文も中東研究関連のものがむしろ多いほどです。しかし、どれほどエジプト関連の先行研究を読んでも、基本的には国際法学を専攻している(と思っている)私としましては、基本的な先行研究を見落としてしまっているのではないか、史料の読み方として正しいのだろうか、そもそもアラビア語の読み方が根本的に間違っているのではないか…などといった不安に襲われることがあります。

このような不安を抱えつつ研究している私にとって、この中東☆イスラーム研究セミナーは願ってもないありがたい機会でした。近代のエジプトないしイスラーム世界について自分なりに勉強を始めた時から、論文等で勉強させて頂いている先生方から、一時間も(懇親会なども含めるともっと長く)コメントを頂けるというのは、やはり極めて有益でした。上の不安のいくつかも解消することができました。他の参加者の方からのコメントも法学部の人間がメインの研究会などでは出ないであろうものが多く、その場での返答には窮しつつも、大変勉強になりました。このセミナーの存在自体は数年前から知っておりましたので、もっと早く参加しておくべきだったと後悔するほどでした。

それから、他の参加者の方のご報告に質問・コメントさせていただき事も良い刺激になりました。今回は人類学関連のご報告が多く、分野としてもほぼ初めて接するものでした。それでも各報告者の報告後にまずは参加者による質問・コメントの時間をとって下さいますので、この時間中に質問をするために色々と考えながら報告を聞きます。そうすると、資料の使い方や論旨の展開の仕方について考えることになり、分野は違う自分の研究にとってもかなり勉強になりました。

ところで、このように私自身の報告に関しても、あるいは他の参加者の方の報告に関しても得るところの多いセミナーだったのですが、これほど有益なものとなっているのはセミナーの雰囲気の良い大きき要因だったように思います。セミナーを三日間連続して行う事で雰囲気が良くなるという事もあるのかとは思いますが、やはり先生方そして事務局の千葉さんのご尽力とお気遣いが大きいのだと思います。また参加したいな、いや、でもまた参加するという事は博論を書きあげていないという事だからそれは…などと思いつつ終わったセミナーでした。末筆とはなりませんが、先生方、事務局の千葉さん、ありがとうございました。